

清水寺



御食事は、
夢ニカフェ「五龍閣」で.....

keisuke.

仁王門

応仁の乱（1467～1477年）によって焼失しましたが、15世紀末に再建され、平成15年（2003）に解体修理されました。清水寺の正門で、幅約10メートル、奥行き約5メートル、棟高約14メートルの、室町時代再建当時の特徴を示す堂々たる楼門です。

入母屋造り、檜皮葺（ひわだぶき）、鮮やかな丹塗りのため「赤門」とも呼ばれています。





【仁王門】

美しい丹塗りに映える正面軒下の「清水寺」の額は、平安時代の名書家、藤原行成の筆と伝わっています。

また、門の両脇には像高365センチメートル、京都で最大級の仁王像が金剛の大力で清水寺を警護しています。向かって右側が開口阿形（あぎょう）的那羅延堅固王（ならえんけんごおう）、左側が閉口吽形（うんぎょう）の密迹金剛力士（みっしゃくこんごうりきし）。

檜材の寄木造で、均整のとれた骨格と躍動的な姿態が、鎌倉時代の様式をよく表しています。門前、左右両方の狛犬の口が、どちらも「阿形（あぎょう）」＝開口した形になっています。一般的に狛犬は口を開けた「阿形」と、口を閉じた「吽形（うんぎょう）」で一对をなしており、これはとても珍しいもの。

明治時代に寄進される折、東大寺南大門にある狛犬をモデルにして造られたことによります。また、お釈迦さまの教えを大声で世に知らしめているともいわれています。

【西門】

現在の建物は寛永8年（1631）再建のもの。もとの創建時期は分かっていませんが、史書「帝王編年記」など鎌倉時代の文献に見えるので、おそらく浄土教が流行した平安時代末期にはできていたと推測されています。

ここから見る西山の日没は素晴らしく、極楽浄土に往生する入り口の門、浄土を観想する日想観（にっそうかん）の聖所であったと考えられています。

平成6年（1994）に桧皮屋根の葺き替えと、彩色の全面復元がなされました。

【三重塔】

絢爛豪華な建築美を見せているのが三重塔です。平安時代初期847年に創建され、寛永9年（1632）に再建。現在の塔は古様式に則って昭和62年（1987）に解体修理したもので、総丹塗りとともに、桃山様式を示す極彩色文様を復元しました。

内部には大日如来像を祀り、四方の壁に真言八祖像、天井・柱などには密教仏画や飛天・龍らが極彩色で描かれています。

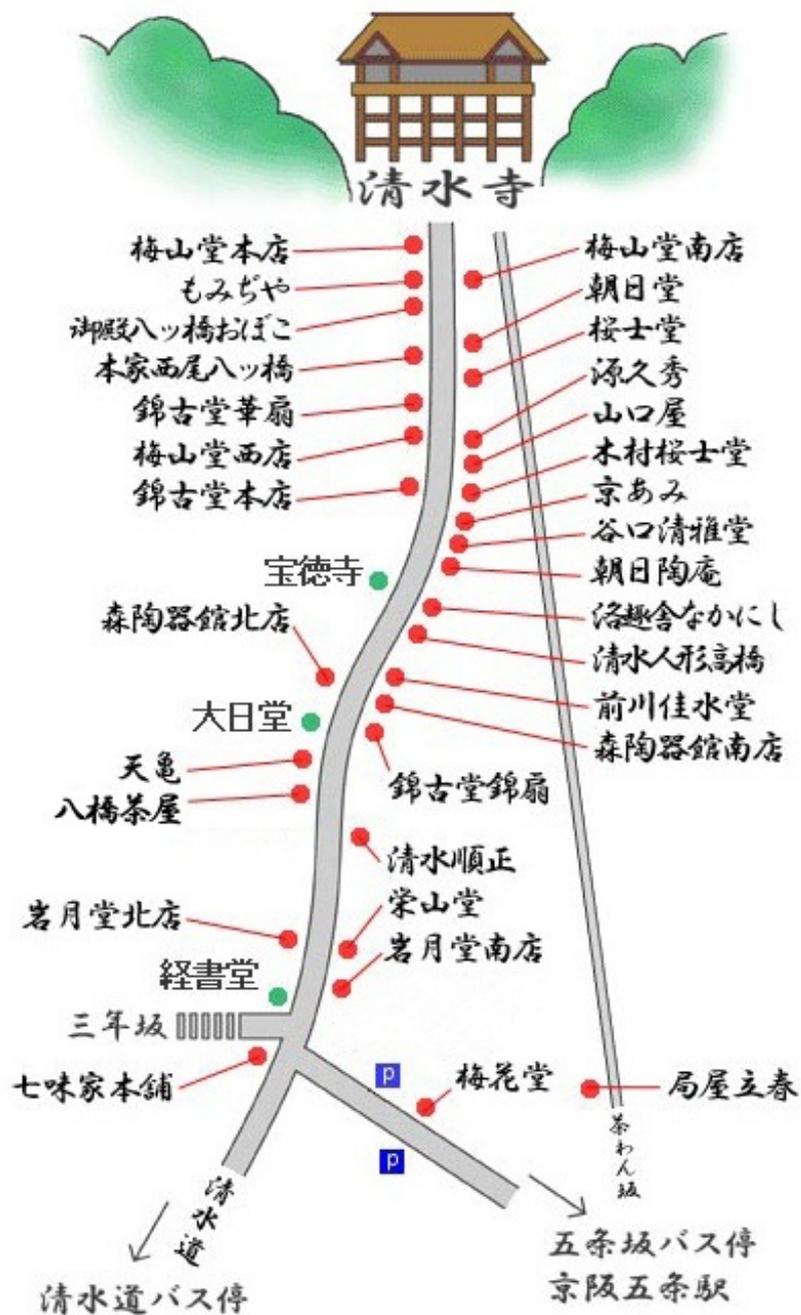
三重塔としては日本最大級の高さ約31メートルの塔は、清水寺、京都東山のシンボルとして、古くから国内外に広く宣伝されてきました。



仁王門、階段上より清水寺参道を望む

【清水寺門前会】

公式HP <http://www.monzenkai.com/>







本堂

西国三十三所観音霊場第十六番札所

洛陽三十三所観音霊場第十二番札所

寛永10年（1633）に再建された、正面36メートル強、側面約30メートル、棟高18メートルの大堂です。

堂内は巨大な丸柱の列によって外陣（礼堂）と内陣、内々陣の三つに分かれ、通常、外陣とさらに外側にめぐらされた廊下を進んで拝観します。

建物は、優美な曲線を見せる寄棟造り、檜皮葺の屋根や軒下の蔀戸（しとみど）など、平安時代の宮殿や貴族の邸宅の面影を今に伝えています。



【西国三十三所観音霊場】

<http://www.saikoku33.gr.jp/>

【洛陽三十三所観音霊場】

<http://www.rakuyo33.jp/>

清水の舞台

昔から思い切って決心することを「清水の舞台から飛んだつもりで・・・」といいますが、その語源となったのが、この場所。

錦雲溪（きんうんけい）の急な崖に、最長約12メートルの巨大な檜の柱を並べ、「懸造り」という手法で、釘を一本も使わずに組み上げた木造建築です。

本堂から張り出した「舞台」はちょうど4階建てのビルの高さにあたり、京都市街の眺望が見事。面積は約190平方メートル、410枚以上のヒノキ板を敷き詰めた「桧舞台」です。









子安塔

清水の舞台より、遠く「子安塔」を望む

【子安塔】

子安塔は、聖武天皇、光明皇后の祈願所と伝わっていますが、詳しい創建時期はわかっていません。現在の建物は明応9年（1500）のもので、明治の終わりまで仁王門の左手前に建っていましたが、本堂の南に位置する、錦雲溪を隔てた丘の上に移築されました。高さ約15メートル、檜皮葺の三重塔の内部には、子安観音（千手観音）をお祀りし、名前の通り安産に大きな信仰を集めてきました。



























音羽の瀧（おとわのたき）

清水寺の開創の起源であり、寺名の由来となったのがこの瀧です。こんこんと流れ出る清水は古来「黄金水」「延命水」と呼ばれ、清めの水として尊ばれてきました。

3筋に分かれて落ちる清水を柄杓に汲み、六根清浄、所願成就を祈願するため、連日、行列ができるほどの人気の場所ですが、元は瀧行の場。開基行叡居士（ぎょうえいこじ）、開山延鎮上人（えんちんしょうにん）の伝統を守り、現在も水垢離が行われています。











門前町の賑わい

この日は中国の「春節」期間中。
大勢の中国人観光客が押し寄せ、通りは賑やかでした。













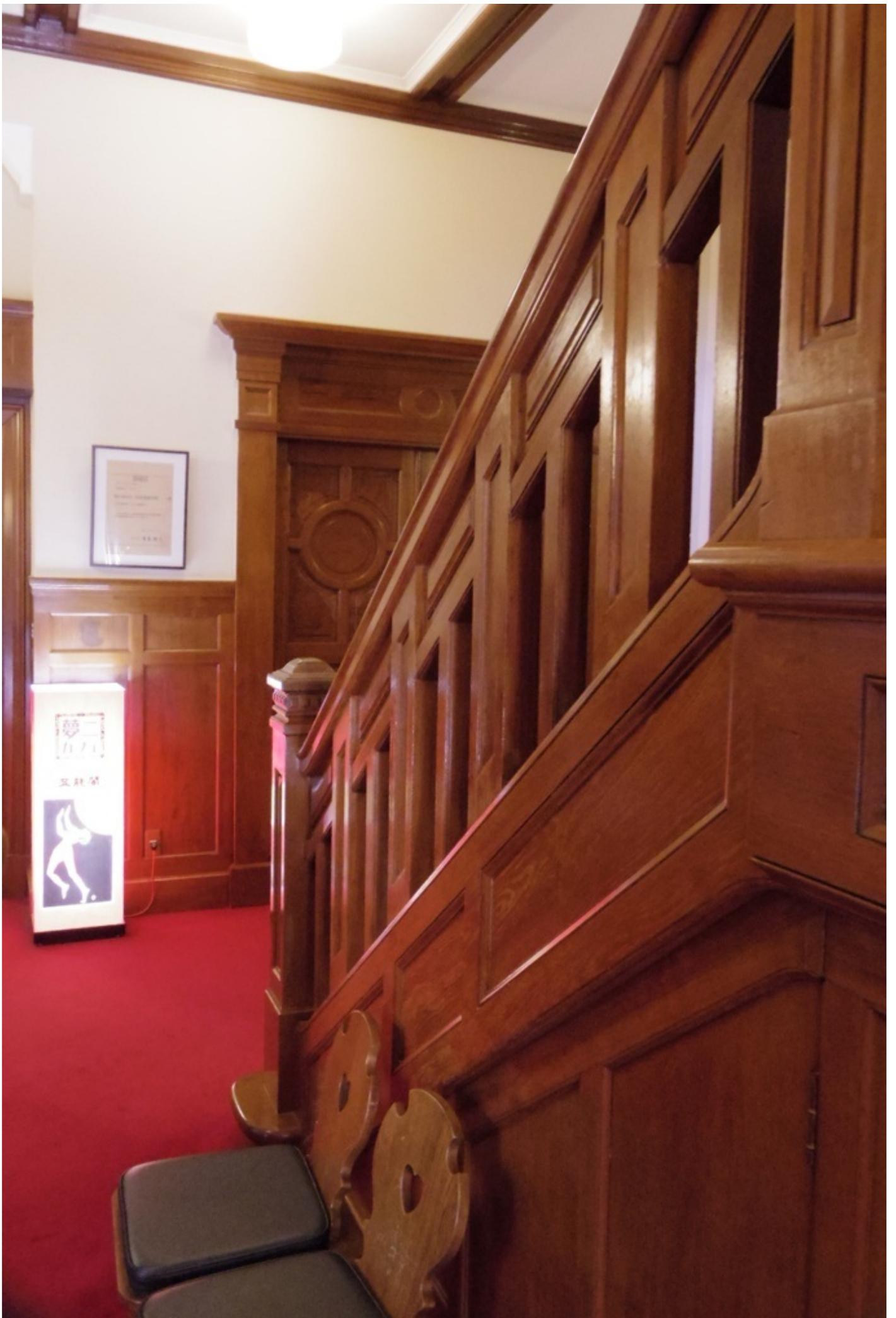












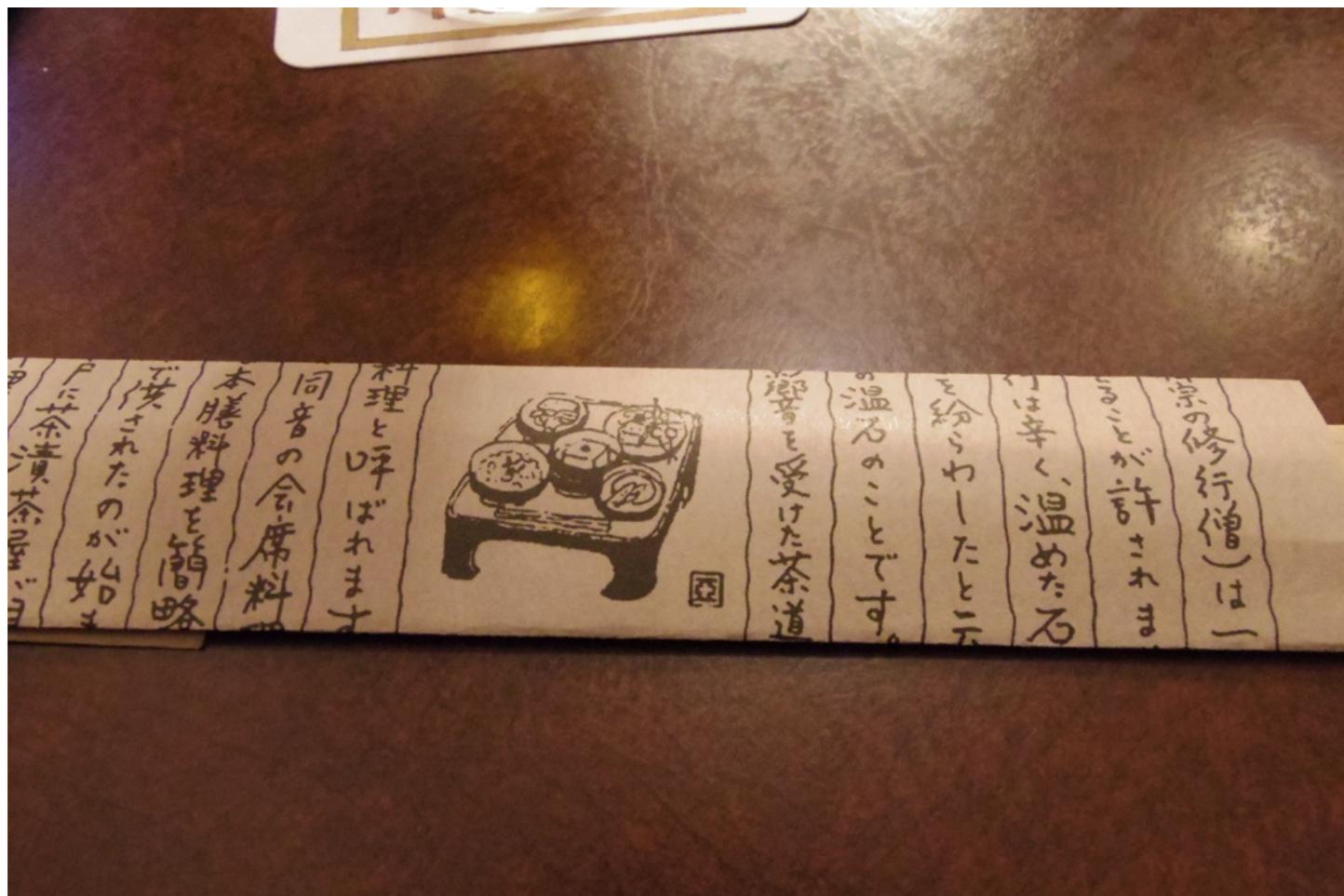








店内は、竹久夢二の作品を展示したギャラリーを兼ねています。









[大正13年 (1924) 11月号]

竹久夢二 婦人グラフ 寝椅子





竹久 人グラフ 麻利耶観音

【大正13年(1924)11月号】





付け合せの豆腐サラダ





京野菜パスタ

娘が注文したのは、

白味噌とおかべ家自家製豆乳で作ったクリームソースに、季節の京野菜を添えたパスタでしたが撮影するのを忘れてしまった為、^^;HPより画像を拝借しました。







清水寺

御食事は、夢二カフェ「五龍閣」で

<http://p.booklog.jp/book/95577>

著者 : keisuke。

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/keisukedayo/profile>



感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/95577>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/95577>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社ブクログ